

第7回「ものづくり日本大賞」について

文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室

1. はじめに（ものづくり日本大賞とは）

「ものづくり日本大賞」は、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など、「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、特に優秀と認められる人材に内閣総理大臣賞等を授与することで顕彰し、「ものづくり」に携わる者の誇りと意欲の向上を図り、「ものづくり」に係る技術及び技能の更なる発展と次世代への着実な継承に寄与することを目的として創設されたものである。本賞は、経済産業省、国土交通省、厚生労働省及び文部科学省が連携して、平成17年度から隔年度開催で実施しており、今回で7回目を迎えた。

2. 「ものづくりの将来を担う高度な技術・技能」分野について

近年の熟練技能者の高齢化や若年者のものづくり離れが深刻化する中で、ものづくりに携わる人材の育成は喫緊の課題となっている。このような状況の中で、第2回（平成19年度）からは、「ものづくりの将来を担う高度な技術・技能」を有する青少年のうち、特に優れていると認められる生徒・学生を表彰する「青少年部

門」（内閣総理大臣賞）及び、ものづくり人材育成に顕著な功績を修めた学校を表彰する「青少年支援部門」（文部科学大臣賞）を創設した。

(1) 青少年部門（内閣総理大臣賞）について

ものづくりに関する競技大会等において、文部科学大臣賞等を受賞した者の中から、特に優れた成果を修めた個人・団体を表彰するものである。

第7回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞受賞者は、高橋真也氏（愛媛県立東予高等学校平成29年3月卒 現在、株式会社シマブンコーポレーション勤務）に決定した。

高橋真也氏（以下、受賞者と記す）は、ものづくりの全国的な競技大会である「高校生ものづくりコンテスト」旋盤作業部門 経済産業大臣賞及び「若年者ものづくり競技大会」旋盤職種 厚生労働大臣賞を受賞し、同一年度で二つの大会で第1位となった。各大会の課題は異なり、100分の1ミリメートルの寸法精度、仕上げ面粗さ、ねじのはめあい、作品の完成度など、精密で高度な技術が求められるものである。

受賞者は高校3年間、機械部に所属し、部長としてリーダーシップを発揮するとともに、人一倍の努力と練習を積み重ねることで、旋盤作



第7回「ものづくり日本大賞」内閣総理大臣賞
表彰式（平成30年1月22日）
（安倍内閣総理大臣から表彰状が授与された。）

業における幅広い知識と高度な技術・技能、忍耐力、創造力等を身に付けており、将来のものづくりを担う人材として今後の活躍が大いに期待されることが評価されての受賞となったものである。

第7回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞表彰式の翌日、受賞者にインタビューを行った。以下はその概要である。

私は、小さい頃からものづくりが大好きで、ものをつくる過程が特に楽しく、工業高校に進学することを決めました。高校の体験入学で旋盤を操作する機会があり、興味をもったことも大きなきっかけとなりました。高校では機械部に所属し、尊敬する先生の御指導のもと、アドバイスをしながら仲間と切磋琢磨して技術を



大会時における受賞者の様子

磨き、同一年度の高校生ものづくりコンテストと若年者ものづくり競技大会の全国大会制覇を成し遂げることができました。特に、励まし合いながら共に過ごした4人の同級生の存在は私にとって大変大きなものでした。

私はものづくりを通して技術を磨くだけでなく、集中力、考えること、準備をすることの大切さや仲間の大切さ、「自分の目標に向かってコツコツと努力していけば、最後にはやってよかったと思える時が来る」ということなど多くのことを学びました。工業高校は実習も多く、体を動かして何かものを作りたいという人におすすめします。

これからものづくりを学ぶ皆さんには、夢をもって何事もあきらめず頑張ってほしいと思います。

(2) 青少年支援部門（文部科学大臣賞）について

ものづくり人材育成に特に大きな貢献があった学校（中学校、高等学校及び中等教育学校）を表彰するものである。

第7回「ものづくり日本大賞」の文部科学大臣賞受賞校は、福岡県立福岡工業高等学校（校長 平野孝幸氏）と岐阜県七宗町立神測中学校（校長 山本峰明氏）に決定した。

ア 福岡県立福岡工業高等学校の取組

福岡県立福岡工業高等学校は、工業技術者に必要な専門知識やものづくりの技術・技能に加えて、発想力や創造力を高める教育にも積極的に取り組む等、知的財産教育を機軸としたものづくり人材の育成を継続して行っていることなどが評価されての受賞となった。

同校の特徴的な取組は、以下の点である。

- ものづくりと連携してパテントを考案する発想力の育成
- ・高校生パテントコンテストに7名が入賞し、

過去5年で6名が特許取得。

- ・平成28年度は、文部科学省科学技術・学術政策局長賞を受賞。
- 企業等と連携し、製作から販売までを見据えたビジネスプランを考案する起業家精神の育成
- 校務分掌に知的財産教育推進委員会を設置するとともに、知的財産権制度の学習に外部人材を活用

イ 岐阜県七宗町立神渕中学校の取組

岐阜県七宗町立神渕中学校は、山間部に位置する全校生徒37名の小規模校であるが、古くから木工業が盛んである地域の特色を生かし、地域と連携したものづくり人材の育成を継続して行っている。

同校では、「ものづくり部」が熱心に活動し、各種ものづくりコンテストに挑戦するなど、多くの生徒が日々ものづくりに取り組んでいる。また、地域・保護者・学校が一つになって生徒の活動を支援し、ものづくりを通して、あきらめない心、丁寧に取り組む心、感謝する心を育てていることなどが評価されての受賞となった。

同校の特徴的な取組は、以下の点である。

- 木工、ロボコン、弁当、バッグの中から種目を選び、「ものづくり部」として多くの生徒



木工チャレンジコンテストでの様子

がものづくりに取り組んでいる。

- 各種ものづくりコンテストなどへの挑戦
- ・全国中学生創造ものづくり教育フェア（木工チャレンジコンテスト）における活躍（文部科学大臣奨励賞1回、厚生労働大臣賞2回、林野庁長官賞3回等）
- 地域との連携
地域の専門家や保護者、卒業生と連携した指導体制を構築し、地域と一体となって生徒のものづくり活動を支援している。

ウ ものづくりに関わる生徒への支援について
第7回ものづくり日本大賞文部科学大臣賞表彰式の当日、受賞校の校長先生にインタビューを行った。以下はその概要である。

- 福岡県立福岡工業高等学校（平野校長先生）
 - ・創造的・実践的な技術者の育成、また、ものづくりのセンスも磨いてほしいと考え、知的財産教育等に取り組んできた。日常生活においても「考えてものを見る」ことを意識するよう指導している。
 - ・継続して、産学官連携によるものづくり人材の育成に努めてきた。インターンシップや地域のものづくりマイスターとのチームティーチングによる授業、教師が企業で研修する取組などを通じて、本物を扱うことを大切にしている。
 - ・気付いたアイデアを活かす心を育てるため、文化祭でアイデアコンテストなども実施している。
 - ・知的財産教育は単にものづくりの技術を身に付けるだけでなく、生徒相互に対話する機会が増え、クラスの連帯感が高まるなど、日頃の教育活動にも好影響を与えている。
- 岐阜県七宗町立神渕中学校（山本校長先生）
 - ・ものづくりに取り組むきっかけは「ロボコン」だった。17年ほど前、地域の工業高校のロボットコンテストを見た教員が「うちの学校

でもやってみたい」ということで、始まった。
 また、本校は木工業が盛んな地域にあり、木工の活動にも広がった。現在は、「木工・ロボコン・弁当・バッグ」の中から生徒が希望する種目を選び、ものづくり部として取り組んでいる。幅広い分野にして細く長く無理のないよう進めてきたことが、17年間活動が継続したことにつながった。

- ・地域の木工の専門家を講師として招聘するとともに、保護者など地域の方々にも御指導いただいている。「我関する」という姿勢で学校を支えていただいている。
- ・町長からは、「子どもたちが頑張っていることが町の誇り」と言っていた。各種大会への参加に係る経費の支援など、町も積極的に応援してくれている。
- ・「あきらめない心」「丁寧に取り組む心」「感謝する心」を大切にして取り組んでおり、さらに、「イメージしたものが形になる」というところがものづくりの魅力であると感じている。
- ・ものづくりには夢があり、技能五輪に出場した先輩が後輩に対して講演するなど、ものづくりの取組は受け継がれている。
- ・中学生の進路選択の際には、専門高校を含めた多くの高校の体験入学等に行くよう生徒に勧め、本当に自分に合う高校を選ぶことが必要であると感じている。

3. むすびに

受賞された関係の皆様は、日頃から、真摯にものづくりに関わる技術や技能の向上を目指しての練習、また、産業の発展に重要な役割を担う人材の育成に向けて工夫した指導に取り組み、その成果が認められての受賞である。

今回、惜しくも受賞することがかなわなかった皆様も、ものづくりに関わる創意工夫を生か



福岡県立福岡工業高等学校



岐阜県七宗町立神淵中学校

第7回「ものづくり大賞」文部科学大臣賞
 表彰式（平成30年2月23日）

（白間大臣官房審議官から表彰状が授与された。）

した特色ある取組を継続されている。

我が国の産業の発展に欠かせないものづくりを通じて、初等中等教育における学校がこれからも更なる飛躍を遂げられることを期待したい。

※第7回「ものづくり日本大賞」の詳細については、文部科学省ホームページに掲載している。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/mono/1401915.htm